

高嶺の花よいつまでも…。



JAFPA

特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会

2010.5.1 No.62

- 設立後20年が経過して
- 特別寄稿
 - ・今、南アルプス白根三山周辺で起こっていること ニホンジカの影響
 - ・南アルプス食害対策協議会の取り組み
- 支部の活動報告
 - ・静岡支部
 - ・関西支部
 - ・伊那谷支部
- 会員からのたより
 - ・八ヶ岳ホテイラン保護ボランティアスタッフ募集
 - ・キタダケソウを取り巻く状況
- 第2回大井川源流 南アルプス100人会議
- 平成22年度高山植物観察山行指導者研修会実施要綱



保護柵内と刈りとられたような周辺 櫛形山(裸山) 広瀬和弘氏提供

設立後20年が経過して

伊那谷支部長 片桐 勝彦

日本高山植物保護協会の設立総会は、平成元年6月、山梨県高根町(現 北杜市)の(財)キープ協会ネチャーセンターにおいて開催されました。その後、平成4年11月には関西支部、平成8年5月に静岡支部、平成12年7月には伊那谷支部が設立され、平成16年4月には念願の特定非営利活動法人(NPO 法人)の認証を受け、昨年6月に20周年となりました。

この間、指導者研修会や観察山行、高山植物保護シンポジウムや講演会、ゴミ袋や水解性ティッシュペーパーを配布しての高山植物保護キャンペーンなどを各地で実施するとともに、酸性雨調査や写真教室・絵画教室なども開催して、国民の皆様には高山植物保護についての理解と協力を求めて参りました。

また、各支部はそれぞれの特徴を生かして観察山行や美化活動、植生復元活動や高山植物等保全対策検討会・指導員研修会、環境保全パトロール・植生復元マット敷設やゴミ持ち帰りキャンペーンなどを精力的に実施しています。

しかしながら、残念なことに近年会員は漸減しております。設立後20年が経過して退会される方が増えていることや、今日の経済状況などからやむを得ないものとは思いますが、高山植物保護を取りまく環境は、ニホンジカによる食害等によって一層厳しい状況にあり、各地においてより活発な保護活動を展開していくことが求められています。

このためには支部を増やすことが必要だと思えます。支部を増やすことが出来れば高山植物保護の理解者を拡大できると思えます。支部には大きな活動を求めることはできないにしても、それぞれの地域において支部が地道な啓発活動に取り組むことにより、高山植物や自然保護への理解を求めることは大きな意義があると思えますし、会員の拡大も期待できると思えます。

本部情報紙は保護啓発活動の周知、会員の交流の場としても大切な役割を担っており、会員の意見発表や情報提供等積極的に活用すべきであり、一層の充実を期待いたします。



今、南アルプス白根三山周辺で起きていること ニホンジカの影響



山梨県森林総合研究所 長池卓男

本誌でも連載で報告されているように、ニホンジカの高山帯への影響が盛んに報告されるようになってきています。北岳をはじめとする南アルプス白根三山でも例外ではありません。キタダケソウは、ご存じのように世界中で北岳にしか生育しない種ですが、それへの影響も懸念される状況にあります。本稿では、山梨県において行われている調査の結果や、今後の対策などについて紹介します。

山梨県による実態調査の状況

山梨県みどり自然課では、南アルプス白根三山を中心とした実態調査を2008年から開始しました。これまでに影響が大きく及んでいると寄せられた情報から、草すべり周辺を中心に、大樺沢、北岳肩の小屋周辺、旧北岳山荘周辺、農鳥小屋水場周辺で調査を行っています。調査方法は、1×2 mの調査区を設置し、その中に生育する植物とその摂食の状況を調べています。その結果、植生に及ぼすニホンジカによると思われる影響が浮き彫りになってきました。



(写真1) 農鳥小屋水場周辺の下層植生
(2009年7月17日)

た。摂食が多く見られたのは標高2450〜2750 mで、草すべり上部や右俣上部、農鳥小屋水場付近では、踏み跡や採食によって植生が消失している場所もみられるようになっていきます(写真1)。影響の状況は、中部森林管理局(2008)によって長野県側で調査された、「ダケカンバ林、沢地形、緩傾斜地が連続しているような地域において、シカの出現する可能性が高い」という結果と同様の傾向がみられています。特に草すべり周辺では、6月下旬にはニホンジカによると思われる「けもの道」が鮮明にみられ、頻繁に行き来している様子がかがわれます(写真2)。また、ニホンジカと思われる痕跡の最高標高は肩の小屋テント場付近の3,000 mでした(写真3)。森林(樹木)への影響は、



(写真2) 草すべり上部での「けもの道」
(2008年7月3日)



(写真3) 肩の小屋下でのニホンジカ
(撮影：飯島勇人、2009年7月11日)

広河原と大門沢からそれぞれの登山道での森林限界まで、および農鳥小屋水場周辺で調査を行っています。調査方法は、10×40 mの調査区を設定し、その中に生育する樹木の中で剥皮されている割合を求めました。その結果、亜高山帯針葉樹林やダケカンバ林では樹木への影響は比較的軽微で、落葉広葉樹林(特に大門沢)でその影響が大きいことが示されました(表1、写真4)。

これまで行われてきた中部森林管理局や環境省の調査、そして山梨県の調査の結果、白根三山で



(写真4) 大門沢の落葉広葉樹林でのニホンジカの剥皮 (2008年7月8日)



表1. 森林へのニホンジカの影響

標高 (m)	場所	剥皮率 (%)	森林タイプ
1563	奈良田→大門沢小屋	39.5	落葉広葉樹林
1358	奈良田→大門沢小屋	28.2	落葉広葉樹林
1973	大門沢小屋→下降点	28.0	落葉広葉樹林
2319	御池→分岐	10.9	亜高山帯針葉樹林
2096	御池小屋下	8.5	亜高山帯針葉樹林
2233	大門沢小屋→下降点	5.6	亜高山帯針葉樹林
1755	大門沢小屋上	3.8	亜高山帯針葉樹林
1865	大門沢小屋上	2.4	亜高山帯針葉樹林
2412	御池→分岐	1.8	亜高山帯針葉樹林
2186	御池小屋下	0.0	亜高山帯針葉樹林
2516	御池→分岐	0.0	ダケカンバ林
2605	御池→分岐	0.0	ダケカンバ林
2657	分岐→二俣	0.0	ダケカンバ林
2684	旧北岳山荘	0.0	ダケカンバ林
2711	御池→分岐	0.0	ダケカンバ林
2712	旧北岳山荘	0.0	ダケカンバ林
2726	分岐→二俣	0.0	ダケカンバ林
2737	農鳥小屋水場	0.0	ダケカンバ林
	平均	4.8	

高山植物等保全対策基本計画」を策定しました。2010年度からは環境省や山梨県による調査研究やそれに基づく対策も本格的に開始することになっていきます。その内容としては、ニホンジカの捕獲、技術的に困難な高山帯でのニホンジカ捕獲技術開発、効率的な捕獲のためのニホンジカの行動圏把握、植生保護柵による緊急対策、増殖技術の開発など、が考えられています。これらの対策が行われることによる効果をモニターすると言ったことが今後必要になってきます。

はニホンジカの影響が無視できない状況にあることが分かってきました。そこで、環境省では、2009年度に南アルプス国立公園高山植物等保全対策検討会を設置し、「南アルプス国立公園及び隣接する地域における

捕獲、防除、生息地管理の取組みが必要

ところで、高山帯にまで出現しているニホンジカが1年中高山帯にいたとは考えられません。冬には積雪や低温を避けて低山に下りていることでしょう。そのように、低山に下りたところを捕獲すれば、高山での困難な捕獲よりも効率的であると考えられています。しかしながら、夏に高山帯にいる個体が冬にどこにいるかというデータは乏しいのが現状です。信州大学の泉山茂之先生の研究では、秋に北沢峠にいた個体は、白州の日向山で冬を越し、夏には塩見岳へ、と広範囲に移動していることが明らかになっています。しかし、高山帯にいるすべてのシカがこのような行動をしているわけではなさそうなおも分かっています。このようなデータを積み重ねることでも今後効率的な捕獲策を検討していきます。

野生動物の管理には、「増やしてしまった個体数を減らす(捕

獲)」「被害のでないように対策する(防除)」に加えて、「これ以上増やさないようにする(生息地管理)」の3者での取り組みが必要です。なぜならば、いくら捕獲することによって個体数を減らしても、個体数が増える要因が取り除かれなければ、効果的に個体数を減らすことは困難だからです。

したがって、捕獲と同時にニホンジカをいかに増やさないかを考える必要があります。それには、関係する多くの皆さんで総合的に取り組む必要があります。子ども達にどのような南アルプスを受け渡すのかを考える上で、地域全体として考えなければならぬことも重要なことです。

平成23年度

NFD花とデザイン援助助成金事業公募のお知らせ

日本の自然環境及び景観の保全につながる公益的な活動に対する援助助成金のお知らせです。希望する方は、下記URLより申し込み方法をご確認ください。

【助成概要】

- 対象事業 (総額 400 万円)
 - ①植物保護活動 ②自然保護・環境保全の調査研究
- 対象期間

平成23年4月1日～平成24年3月31日
- 応募方法

所定の申請書をホームページ (<http://www.nfd.or.jp>) からダウンロードして下さい。
- 締め切り

平成22年8月31日必着

●問い合わせ先
相川・梶原
TEL 03-5420-8741





特別寄稿

南アルプス食害対策協議会の取り組み

伊那市産業振興部農林振興課 下島 聡

【協議会設立の経緯】

南アルプス周辺区域におけるニホンジカの生息数は増加する一方であり、長野県の特定鳥獣保護管理計画によると南アルプス周辺域には30300頭のニホンジカが生息していると推定されています。

生息密度の増加による食圧は山麓の農地から、高山帯まで広範囲にわたっています。高山帯においては貴重な高山植物に対する食害、森林帯では自然植生への食圧による林地崩壊の危険性が増加し、中山間地域では農作物への被害による耕作者の生産意欲の減退を招き、荒廃農地、遊休農地の増加原因の一部となっています。

各地域においても自衛のための防鹿柵、電牧柵の設置や個体数調整の対策を行っていますが動物には県、市町村の境界が無く、安全で餌の豊富な地域へと移動しながら生息数を増している状況であ

り、広域的な対策が望まれています。

このような状況の中で、南アルプスの貴重な高山植物、丹精込めて作った農作物、林産物をニホンジカの食害から守っていくため、関係機関（南信森林管理署、長野県、信州大学農学部、伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村）の英知を結集し、相互に連携協力するため、平成19年9月に設立したのが南アルプス食害対策協議会です。

南アルプスの仙丈ヶ岳は、その容姿から南アルプスの女王として知られ、特に馬の背周辺ではクロユリやシナノキンバイ、ミヤマキンポウゲを始めとする、高山植物のお花畑があちこちで見られていました。しかしここ数年、高山帯にまで進出したニホンジカによる食圧により、その多くが衰退し以前の姿は見られなくなっています。現在は、ニホンジカの好まないマルバダケブキ、バイケイソウな

どにより、単一の植生となり、既に自然に植生が回復する状況ではありませんでした。

そこで、平成20年度より、協議会では、「できることから始めよう！南アルプスの貴重な高山植物保護」をスローガンに各種対策を行っています。

【仙丈ヶ岳馬の背への防鹿柵の設置】

平成20年度には緊急に保護対策が必要な、仙丈ヶ岳の馬の背に防鹿柵を設置することにしました。この作業は8月7～9日の3日間かけて行い、ボランティアを募り60名を越える皆さんや環境省の協力により実施しました。

柵の規格は、支柱地上高2m（コンポーザパイプ支柱）とステンレス線入りの網目15cmのネットでの構成となっています。また、ニホンジカの他雷鳥等の鳥が誤ってネットにかからないよう視認性を高めるためオレンジのネットを採用しました。防鹿柵は登山道に沿うように2.5mピッチに支柱を立て、3箇所、総延長L11330m A110.18ha設置しました。設置箇所は最大積雪が5m近くにもなる雪崩地帯のため、一箇所は全部取り外す型とし、二箇所目は

支柱を補強する型、三箇所目は支柱をそのままにネットのみ下げる型での設置としました。

H20・8・7防鹿柵設置作業



設置から約一ヵ月後の9月4日に現地を確認したところ、柵の中でミヤマセンキュウの花が咲いており、柵の効果が確認され次年度に向けての期待もふくらみました。

秋10月23日には、植生の回復状況を確認しながら、ネットの撤去作業なども行いました。

平成21年度は、馬の背に防鹿柵を2箇所L11280m A110.16ha追加し、夏に植生の確認



登山者への啓発看板の設置

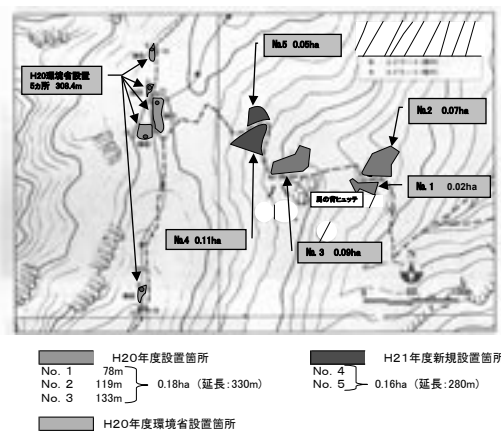


を行ったところ、タカネスイバ、シラネセンキュウ、ミヤマキンポウゲ、キヤマシシウド等が柵の中で確認され、植生が完全に消滅していないことに安心したところだ。しかし相変わらず柵の無いところでは、食圧により単一の植生に変わってきており、対策の難しさを実感しているところです。

【ニホンジカの行動範囲調査等の実施】

防鹿柵の設置と併せて、信大農学部に委託し各種調査も実施しています。ニホンジカに発信機を取り付けての行動調査、食害が侵食

防鹿柵設置位置図



土砂量と植生の回復に与える影響調査、防鹿柵の内と外の植生調査です。特に発信機による行動調査では、狩猟期になるとニホンジカは禁猟区へ移動するなど、その驚くべき行動パターンも報告されて今後の対策の参考となる資料となっています。平成21年度からは、林野庁の補助をいただく中で調査エリアを拡大し、実施しています。これらの調査は経年で行うことが重要となるため、今後数年にわたる調査を実施する計画です。

【一般市民への啓発活動】

南アルプスの高山植物が置かれている状況は前述のとおりですが、これらのことを知っている市

民はごく限られた方ではないでしょうか。そこで協議会では、広く状況を知ってもらうための啓発活動も行っています。平成20年7月26日には「南アルプス食害対策シンポジウム」の開催、翌年3月17日には、協議会の活動報告会を行いました。また、協議会の21年度総会の席では、隣接静岡県を担当職員を招いての講演会なども行なってきました。

【環境省との連携】

協議会の取り組みと併せて、環境省も平成20年に馬の背に防鹿柵を設置しています。こちらは常設環境省設置防鹿柵



型で5箇所L11308m設置しました。この取り組みにも協議会として協力し設置、メンテナンスなどの作業に参加しています。

【今後の展開】

平成22年度では、新たに南アルプスの兎岳に防鹿柵を設置する計画も進んでいます。しかし、今まで記述してきた防鹿柵の設置により守ることができると高山植物は、広大な南アルプスエリアの中では、猫の額にも満たないごく限られたエリアです。

降雪量も減少傾向で、ニホンジカが自然淘汰によりその数を減らすことは難しいと感じます。今後は調査内容に基づき、鹿の個体数調整の方法の確立が必要ではないでしょうか。そのためには減少する猟友会員の確保など解決しなければならぬ問題も数多くありますが、他地域（八ヶ岳周辺でも協議会を設立）でも活動が広がっています。これはうれしいことです。手をこまねいていても仕方ありません。「できることから始めよう！」をキャッチフレーズに今後もう少しずつであっても確実に対策を実行していきたいと考えています。



南アルプスにおける植生復元活動（第八報）

静岡支部 鶴 飼 一 博

過去、南アルプスの聖平、三伏峠、茶臼で防鹿柵を設置してきたことを報告させていただきました。今回は防鹿柵の設計について、今までの経験をもとにポイントをまとめてみたいと思います。

1 防鹿柵は必要？

最初にニホンジカの採食圧によるものか、どうなのかを見極めなければなりません。見極めのためであれば、4㎡から100㎡程度

であれば、数年間放置し、柵内外の植生を比較すれば、採食影響があるかどうかはわかると思います。

ニホンジカの採食影響が強いと判断された場合、どこでも防鹿柵を設置する必要があるのでしょうか？植物側から見れば、保護してほしいかと思われているかもしれません。しかし、一方でこのようなことは歴史を大きく見れば、過去にあったことで、とりたてて騒ぐ必要のないことかもしれません。現在、このことについて、特に南アルプスにおいては答えがなく、多分、氷期が終わった後、高山帯までニホンジカは大量に上がってきた

たことはないだろうと予想していただきます。そのため、高山植物の保護が必要と考え、防鹿柵の設置を行っています。

保護というと、絶滅危惧種の保護や、特定の植物群落の保護に偏りがちですが、必ずしも絶滅危惧種のような貴重種ばかりを保護すればよいわけではありません。南アルプスの特徴とも言われる高茎

ニホンジカに食べられるまでは、多くの場所で見ることができたようです。ありふれた群落であっても、例えば南アルプスの中でも南端に位置しているとか、標高が一番高い場所に位置している等の植物群落は保護すべき対象でしょう。防鹿柵は、植物にとって避難地です。すべての植物を保護することは困難であるため、避難地にす

べきかどうか検討する必要があると思います。

2 防鹿柵で囲む面積は？

では、次にどれくらいの面積を囲めばいいのでしょうか？そこで、検討すべき項目として、生態

学的な側面、施工性、維持管理、経済性について、検討してみます。

生態学的な側面ですが、三伏峠の例を見た場合、斜面の上部、中間部、下部で防鹿柵設置後1年、2年目と優先する植物に

差が見られました。もし、中間部にのみ設置していたら、目標としている植物群落に復元しない可能性もあります。また、植物によって要求する面積に違いがあると思いますので、それらについても調査研究の必要があります。

施工性ですが、山岳地での活動となると平地のような施工性は望めません。また、ニホンジカ対策として行うわけですか



防鹿柵の損傷調査（平成21年7月三伏峠にて）

ら、短期間に囲えなければ意味がなくなってしまう。そういう点からすると作業員の人数によりますが、金属製の防鹿柵とした場合、延長200〜300m/30人/日程度が目安になると思います。

維持管理ですが、どこからも全体を見渡せる程度が良いかと思えます。もし、柵を一望できない場合、ニホンジカの侵入に対する柵の見回り等におもわぬ労力がかか



ることが予想されます。

最後に、経済性ですが、資金源がしっかりとあればいいのですが、必ずしもそうではないことが多いでしょう。資金難により防鹿柵を閉鎖することができなければ、ニホンジカ対策になりませんので、必ず閉鎖できる延長を選択せざるをえません。

3 防鹿柵の構造は？

次に構造ですが、高さに関しては、ニホンジカの跳躍力を考慮し、およそ1.8m～2mが標準になっています。

構造特に資材についても、生態学的側面、施工性、維持管理、経済性について、検討する必要がありますでしょう。

生態学的側面ですが、ニホンジカのみを対象とし、他の生物にとって柵が支障とならないような構造を検討する必要があります。林地ではネズミやウサギ対策として、柵の下端に亀甲金網を追加することもありますが、南アルプスのような場所では、そのような構造はふさわしくないと考えていま

す。網目の大きさについて、ニホンジカの侵入だけを防ぎ、他の生物にとっては支障とならない網目を考えるべきでしょう。

施工性ですが、労力の軽減を図るために、軽量かつ組み立てが簡単な構造が望まれます。特に不慣れたボランティア又は作業員が設置する場合は、この点の検討に重点を置く必要があります。

維持管理については、メンテナンスフリーが理想ですが、施工性に富むような軽量の部材の場合、雪の沈降圧により損傷する可能性が高いと思われます。今後、軽量かつ耐久性の高い材料の開発が望まれます。

4 評価は？

防鹿柵を設置して1年や2年で、柵の効果を論じるのは難しいでしょう。

防鹿柵の設置効果について、柵内外の植生をモニタリングしていくことが重要です。平成14年に聖平に設置した防鹿柵内の草丈は高茎草本群落といえるまで回復していますが、いまだニッコウキスゲ

は柵内の被覆率が10%に達していないため、ニッコウキスゲ群落が復元したとは言えません。柵の効果はあるものの、植生回復・復元に対する評価は、現時点では難しいところです。

では、柵の面積や構造については、どうでしょうか？実際に設置した聖平、三伏峠、茶臼の3箇所について見てみます。

〔聖平〕平成14年に設置した防鹿柵は毎年雪の沈降圧による損傷が大きかったため、平成19年設置時にはさらに耐久性が高いものに変えました。また、試験的な100㎡では避難地としては不十分と考え400㎡としました。さらに大きく囲えればよいのですが、地形の複雑さや施工性を考え2基目は

400㎡としました。

〔三伏峠〕必要性、面積、構造とも良い評価を与えています。

〔茶臼〕もう少しモニタリングしてみないとわかりませんが、設置場所の検討と、面積の検討を再度行う必要があります。

5 さいごに

実際に設置してみないとわからないことがほとんどですが、少しずつデータが集積されてきています。南アルプスはもちろんのこと、他の地域でも、集積されてきているデータを下に、今後設置されるものもつと良いものにしていただければと思っています。

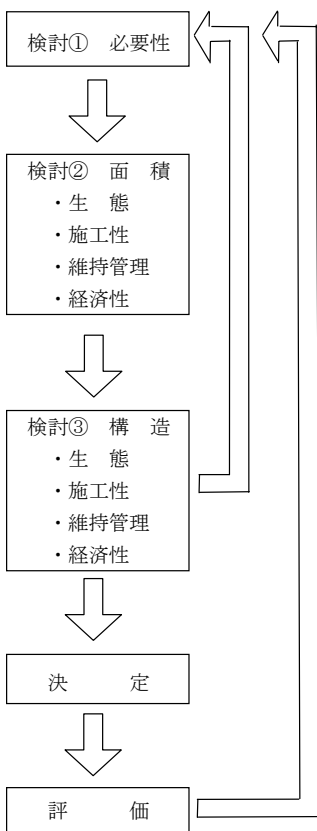


図 防鹿柵の設計のフロー



平成 21 年度活動報告

月	日	事業内容・事業報告	備考
5	5	春の観察山行（大御影山登山道一帯）	参加者 16 名
5	22	伊吹山山頂美化活動	雨天のため中止
5	23	定期総会	新型インフルエンザ流行のため中止
7	26	夏の観察山行（伊吹山；本部主催。支部後援）	荒天のため中止
		環境学習会（下見は実施）	新型インフルエンザを懸念し中止
		幹事会（年間 8 回開催）	開催日（4/2、5/28、6/30、7/30、10/1、12/4、1/6、2/26）
		会報発行（2 回発行）	通巻 21 号 H21 年 7 月 31 日 通巻 22 号 H22 年 3 月 31 日

悪天候や新型インフルエンザ流行のためとは言え、当初計画した行事の多くを中止せざるを得なかったのは大変残念でした。ご容赦お願いいたします。

関西支部 活動報告

（支部長 山角 郁男）



千畳敷駅前で高山植物保護啓発
チラシとティッシュペーパーの配布

平成 21 年度活動報告

平成 21 年 4 月 24 日
 ※中央アルプス開山式参加 千畳敷
 6 月 11 日
 ※高山植物等保護対策協議会南信地区協議会総会参加 南信森林管理署
 6 月 13 日
 ※日本高山植物保護協会平成 21 年度理事会、総会、東京 都市セ
 ンターホテル
 6 月 20 日
 伊那谷支部平成 21 年度総会及び

伊那谷支部 活動報告

（支部長 片桐 勝彦）

第 9 回研修会
 駒ヶ根市 駒ヶ根総合文化セン
 ター視聴覚室
 総 会 20 年度事業報告及び決
 算案承認
 21 年度事業計画及び予
 算案承認
 研修会 中央アルプスの高山植物
 6 月 25 日～9 月 26 日
 中央アルプス高山植物保護啓発
 グリーンパトロール及び高山植
 物生育調査
 延べ 19 日間 実人数 6 名
 延べ人数 36 名
 内 訳
 6 月 実施日 1 日 実人数 3 名
 延べ人数 3 名
 7 月 実施日 6 日 実人数 4 名
 延べ人数 11 名
 8 月 実施日 7 日 実人数 4 名
 延べ人数 13 名
 9 月 実施日 5 日 実人数 3 名
 延べ人数 9 名
 7 月 24 日
 高山植物保護啓発・ゴミ持ち帰
 りキャンペーン 菅の台バスセ



立入禁止区域進入のカメラマンに注意



立入禁止区域進入の観光客

ンター 5名参加

8月上旬～11月上旬

千畳敷案内板写真ケースへ高山植物写真展示 保護啓発と高山植物紹介

8月3日

※高山植物等保護対策協議会南信地区協議会合同パトロール 支部2名参加 千畳敷

8月24日

※長野県自然保護レンジャー上伊那地区合同活動 支部4名参加 千畳敷

9月2日

※中部森林管理局主催植生復元マツト敷設作業 支部2名参加 木曾駒ヶ岳と中岳鞍部

11月5日

※駒ヶ岳神社例大祭参加 千畳敷

平成22年2月9日

※日本高山植物保護協会平成21年度支部長事務局長会議 甲府市本部事務局

2月23日

※木曾駒ヶ岳植生復元対策事業検討会参加 南信森林管理署

平成22年度活動計画

平成22年4月下旬

※中央アルプス開山式参加 千畳敷 6月12日

伊那谷支部平成22年度総会及び第10回研修会

駒ヶ根市 駒ヶ根総合文化センター 視聴覚室

総会 21年度事業報告及び決算案承認

特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会

平成22年度 通常総会の開催

日時 平成22年6月5日(土) 午後1時30分～

受付時間 午後1時～

会場 東京 都市センターホテル
東京都千代田区平河町2丁目4の1
TEL 03-3265-8211

- 日程
1. 総会
 - ・平成21年度事業報告並びに決算報告の承認に関する件
 - ・平成22年度事業計画並びに収支予算(案)に関する件
 - ・役員選任に関する件
 - ・その他
 2. 高山植物フォトコンテスト表彰式
 3. 記念講演「高山のラン その多様性と保全」
理学博士 遊川 知久 氏
国立科学博物館研究主幹
筑波実験植物園研究員

※ 理事会は、午前10時から同会場で開催します。

研修会

伊那谷支部10年のあゆみ
22年度事業計画及び予算案承認

7月下旬

中央アルプス高山植物保護啓発グリーンパトロール及び高山植物生育調査 千畳敷

7月24日

高山植物保護啓発・ゴミ持ち帰りキャンペーン 菅の台バスセンター

8月上旬～11月上旬

千畳敷案内板写真ケースへ高山

8月上旬

植物写真展示 保護啓発と高山植物紹介

※高山植物等保護対策協議会南信地区協議会合同パトロール 千畳敷

8月上旬

※長野県自然保護レンジャー上伊那地区合同活動 千畳敷

9月下旬

中央アルプス高山植物保護啓発グリーンパトロール及び高山植物生育調査 千畳敷



会員からの便り

八ヶ岳ホテイラン保護

ボランティアスタッフ募集

新井和也 (JAFPA 会員、フォトグラファー・ジャーナリスト)

ホテイランは本州中部地方と北海道の亜高山帯の林床にまれに生えます。植物学者の牧野富太郎が「もっとも美しい野生ラン」と讃えたその桃色の花姿は、薄暗い針葉樹林のなかで光る「森の妖精」のようです。

環境省の絶滅危惧種に指定され、盗掘などにより絶滅状態の自生地もあるなか、八ヶ岳の美濃戸周辺では、まだ比較的まとまった個体数が残されています。しかしこの自生地は登山道沿いにあるため隠しようがなく、インターネットの普及ですでに広く知れ渡り、また登山道にロープもないことから観察や写真撮影のための踏み荒らしが盗掘以上に目立ってきました。

昨年、自生地から最も近い山小屋である美濃戸山荘の藤森さんの協力の下で、地元自治体である茅野市の理解による資材提供もあり、共同で手探りの保護対策を始めました。結果、おおむね成功しました。※詳細は会報60の10ページ

具体的には時期は5月下旬から2週間程度(5月20日過ぎから2週間程度の予定)、場所は美濃戸で、最奥にある山荘、美濃戸山荘から登山道を徒歩20分程度で、登山道沿いの長さ約500mほどの区間となります。内容は自生地をパトロールの他、現地解説案内、また期間の前はグリーンロープ設置作業があります。なお、生物調査、植生調査などの経験者の場合、自生地内での個体数のカウント、記録などの仕事をお願いする場合

環境省の絶滅危惧種に指定され、盗掘などにより絶滅状態の自生地もあるなか、八ヶ岳の美濃戸周辺では、まだ比較的まとまった個体数が残されています。しかしこの自生地は登山道沿いにあるため隠しようがなく、インターネットの普及ですでに広く知れ渡り、また登山道にロープもないことから観察や写真撮影のための踏み荒らしが盗掘以上に目立ってきました。

目的に、趣旨に賛同し、ご協力いただけるボランティアスタッフを広く募集したいと思います。

昨年、9月に楡形山で行われた指導者研修会でも「会員直接参加型の活動がほしい。」との声が聞かれましたが、現地はアプローチが近く、体力的にも時間的にも割と参加しやすく、このような要望には最適だと思います。



薄暗い針葉樹林の中で咲くホテイラン

ジに記されています。しかし成功の反面、人手不足など管理体制や課題も残す結果となりました。

自生地は原則的に開花期間中のみ保護ロープを張るという方法をとっています。初日はロープ設置など作業量も多くなるため、5〜6名程度のボランティアスタッフががいれば心強いです。その後の期間中は1〜2名で大丈夫で、現状盗掘よりも踏み込み、踏み荒らしの方が目立つので、おもにホテイラン観察者や登山者への啓蒙や説明になるかと思っています。



そのような状況を理解して、「それでも希少高山植物の保護の役に立ちたい」という高い意志をお持ちの方、心より参加をお待ちしています。

また、開花時期によって期間が若干変動する恐れがあるため、期



するので、まず保護活動として軌道に乗せるのが先決と考えています。そのため今年は、交通費は各自、また宿泊に関しましては一律の優遇はありませんが、一般のお客様と同じサービスを受けるといった形で宿泊費をお願いしたいということです。



保護ロープの杭打ち



ロープで囲われた区域

間については5月中旬頃改めて正式に決定します。

新井和也

TEL 090 - 2734 - 9547

kaz-arai@jcom.home.ne.jp

http://members2.jcom.home.ne.jp/kaz-arai/

八ヶ岳山荘 (美濃戸山荘) 藤森周二

TEL 0266 - 74 - 2728

yatsugatake.fujimori@nifty.ne.jp

http://www.yatsugatake.gr.jp/index.html

連絡先

キタダケソウを取り巻く状況

長野県佐久市 中山 厚志

◆マルバダケブキさえも食害に

南アルプス北岳にはここ3年間でキタダケソウの観察で1回、ライチョウ調査で2回、大学のアルプス実習の講師として1回の計4回登りました。やはり心配なのはニホンジカによる高山植物の食害です。登山口の広河原はオヒョウやウラジロモミ、ウリハダカエデなどの樹木が徹底的に剥皮にあり、うつそうとした暗い森に変化してしまいました。もっとも被害が顕著なのは白根御池小屋上部の草すべりです。シカの警

戒声は草すべり上部まで聞こえます。このあたりはシカの獣道(キャトルテラス)が縦横無尽に走り、イノシシと思われる根堀りも見られます。長い間食害にさらされたので、毒草であるマルバダケブキが優先する草原へと変化してきました。現在ではそのマルバダケブキさえも食害にあっているということです。

◆世界でここにしか咲かない花

世界でここにしか咲かない花「キタダケソウ」はその上部数百メートルの位置にあります。幸

いキタダケソウが咲く時期には稜線上に雪庇が張り出しシカを遠ざけていますので、今現在シカによる食害が見られる状況ではありません。しかし、このまま小雪が続いたり、シカ道がキタダケソウの群生地まで続くような状況が生まれれば消失の危険性さえあります。最大限の努力で食害から守りたいものです。



北沢峠付近のニホンジカ



「第2回大井川源流 南アルプス100人会議」が、次により開催されることとなりました。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

青葉の合唱とあふれる自然の中で語り合う高山植物保護

2010年

第2回大井川源流

南アルプス100人会議

日本高山植物保護協会設立20周年記念 千枚岳登山

- 日 程 2010年7月9日(金)～11日(日)
 - ◇100人会議:7月9日(金)
 - ◇千枚岳登山:7月10日(土)・11日(日)
 - ◇転付峠登山:7月10日(土)
- 場 所 静岡県静岡市葵区大字田代字烏森周辺
(通称榎島【さわらじま】)
- 題 旨 全国的にひろがるシカによる高山植物の食害をはじめ、当該山域の問題や可能性について、議論を深めるとともに、参加者相互の理解と交流を広げます。
- 主なパネリスト(予定) 写真家 白旗史朗氏、環境省、学術関係者他
- 募集人員 一般 100名様(いずれも先着順)
- 参加申込 裏面のFAX申込用紙によりお送りください。

費用

1. 参加費 13,000円
1泊2食の宿泊料、2日目の昼食代、資料費、旅行傷害保険料、会場施設費等
※1日目昼食代金は含まれておりません。
※申込金:参加を受理された方は参加費の内、お申し込み金として3,000円を前納してください。(お申し込み金額は異なります)
2. 交通費 7,000円
(貸切バス利用の方・遠来の方優先・先着40名様)
3. ①千枚岳コース(先着50名様) 19,000円
②悪沢岳コース(先着20名様) 19,000円
※超健康向き
③転付峠コース(先着30名様) 4,000円
(①～③のコースに参加される方は参加費以外に上記の金額が必要です。)

お問合せ NPO法人 日本高山植物保護協会 静岡支部 〒437-0028 静岡県袋井市神長39-17
URL: <http://www.JAFPA.GR.jp> TEL/FAX:0538-43-1514
南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク事務局(中村 隆哉) 〒436-0021 静岡県掛川市緑ヶ丘1-16-5
TEL:090-4860-2111 FAX:0537-61-7000 E-mail: takaya@quartz.ocn.ne.jp

スケジュール

7/9 (金)	13:30～16:30 シンポジウム 16:30～17:30 休憩(入浴など) 18:00～20:00 懇親会	7/10 (土)	5:00～7:00 起床・朝食 ①千枚岳登山(7月10日～11日) ◇悪沢岳コース 6:00 出発 ◇千枚岳コース 9:00 出発 ②転付登山(7月10日) 7:00 出発	7/11 (日)	(千枚小屋) 5:00～7:00 起床・朝食 6:00 出発 第1組下山 9:00 出発 第2組下山
------------	---	-------------	--	-------------	---

宿泊場所

さわらじま
株式会社 東海フォレスト 榎島ロッジ 静岡県静岡市葵区田代字烏森1301-2 TEL:054-46-4717
株式会社 東海フォレスト 千枚小屋 静岡県静岡市葵区千枚岳下 TEL:ありません

(入下山方法の送折)

- ① 静岡駅から貸切バス利用の方(遠来の方優先、先着40名様)
 - A. 入山 7月9日 静岡駅北口 9:00発 13:00 榎島着
 - B. 下山 7月10日 榎島 14:00発 18:00 静岡駅着
 - C. 下山 7月11日 // 12:00発 16:00 //
- ② 自家用車の方
※畑薙第一ダムまで自家用車、以北は(株)東海フォレスト送迎バス乗り換え
 - D. 入山 7月9日 畑薙第一ダム 10:00発 11:00 榎島着
 - E. 入山 // // 12:00発 13:00 //
 - F. 下山 7月10日 榎島 13:00発 14:00 畑薙第一ダム着
 - G. 下山 // // 14:00発 15:00 //
 - H. 下山 7月11日 榎島 10:00発 11:00 畑薙第一ダム着
 - I. 下山 // // 12:00発 13:00 //

※いずれの時刻も、出発の20分前には出発場所にご集合ください。榎島発の時間は状況により変更する場合があります。





平成22年度高山植物観察山行 指導者研修会 実施要綱

平成22年度の高山植物観察山行は、7月25日(日)～26日(月)に八ヶ岳連峰の編笠山・権現岳で、指導者研修会は、9月5日(日)～6日(月)に南アルプスの仙丈ヶ岳で、実施することとなりました。

多数の皆様の、ご参加をお待ちしています。

[申込・問合せ]

E-mail、FAX 又は官製はがきに下記事項を記載して、期限までにお申し込み下さい。

①住所、氏名、生年月日、電話 No、携帯電話 No、会員 No ③健康状態、その他特記事項

②最近一年間に登った主な山

〒400-0027 山梨県甲府市富士見1丁目3-28 特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会

TEL&FAX 055-251-6180 E-mail : info@jafpa.gr.jp

●高山植物観察山行

日 時 平成22年7月25日(日)～26日(月)
1泊2日

観察場所 八ヶ岳 編笠山(2524m)及び
権現岳(2715m)

宿泊地 青年小屋(泊)

参加資格 3,000m級の山岳登山が可能な方

参加費 当協会会員 13,000円
一般参加者 14,000円
(宿泊費、マイクロバス代、昼食代、保険料、
写真代等含む)

募集人員 20名

募集締切 平成22年6月10日(木)※期日前でも募集
人員になり次第締切ります。
参加の可否については、6月20日までに
連絡します。

集合場所 中央線 小淵沢駅前(受付)

集合時間 7月25日(日) 午前9:00

日 程 集合場所 9:00発、マイクロバスにて観
音平 9:30着
観音平～押手川～編笠山～青年小屋(泊)
研修会及び懇談会
26日 6:00青年小屋～ノロシバ～ギボ
シ～権現岳～三ツ頭～木戸公園～
観音平～マイクロバス～小淵沢駅にて解
散 15:00
※青年小屋～権現岳～青年小屋～押手川
～観音平(変更時)
※詳細は、別途参加者にご案内します。

携行品 一般的な登山の服装で、雨具、防寒具、
非常食、懐中電灯等を持参のこと。
(25日の昼食は各自持参して下さい。)

●指導者研修会

当協会発足当時の高山植物保護の活動は、人的な圧迫要因を排除すること、つまり、盗掘や生育地の環境破壊の防止や保護思想の普及啓発等が主たるものでありました。しかしながら近年、サルやシカが本来見られなかった高山にまで進出し、その食圧によって、全国的に高山植物が失われつつあります。このような中で当協会では昨年、アヤマが失われた櫛形山について、保護修復活動を展開している地元活動家の話を伺い、さらに現地に赴き指導者研修を実施してまいりました。本年も昨年に引き続き、南アルプスにおいてニホンジカの食圧がもっとも顕著な仙丈ヶ岳で下記の要領で指導者研修会を開催いたします。

日 時 平成22年9月5日(日)～6日(月)

場 所 南アルプス 仙丈ヶ岳

宿泊地 仙丈小屋

参加資格 3,000m級山岳登山可能な方

参加費 13,000円(宿泊費、保険料、資料代他)

募集人員 20名

募集締切 平成22年7月31日(土)※期日前でも定員
になり次第締め切ります。
参加の可否については7月10日までに詳
細とともに連絡いたします。

集合場所 北沢峠

集合時間 平成22年9月5日(日) 午前7時30分

日 程 9月5日(日) 北沢峠～大平山荘～藪沢～
馬の背(研修)～仙丈小屋(泊)

9月6日(月) 仙丈小屋～仙丈ヶ岳～小仙丈
ヶ岳～大滝の頭～北沢峠(解散)

携行品 一般的な登山の服装で、雨具、防寒具、
非常食、懐中電灯、その他

平成22年5月1日発行

特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会事務局

〒400-0027 山梨県甲府市富士見1-3-28

TEL・FAX 055-251-6180

HPアドレス <http://www.jafpa.gr.jp> E-mail : info@jafpa.gr.jp

掲示板 ID jafpamem パスワード jfpm2001

日本各地の高山植物 No3 (東北地方 1)



サマニヨモギ (キク科) 7~8月
ミヤマオトコモギに似ています。はじめ全体に絹毛がありますが、後に無毛となります。



タカネトウチソウ (バラ科) 7~8月
ワレモコウの仲間、白い花が穂状に直立してつきます。



タテヤマリンドウ (リンドウ科) 6~7月
ハルリンドウの高山型



チシマゼキショウ (ユリ科) 7~8月
草丈は5~15cm、葉はショウブにている



チョウカイアザミ (キク科) 7~8月
鳥海山の特産種で、茎頂に数個の頭花がうつむきかげんにつきます。



トガクシショウマ (メギ科) 5~6月
戸隠山で発見されたことがこの花の名前の由来。

●高山植物一口メモ ホソバヒナウスユキソウ (キク科)

日本には、ウスユキソウの仲間が、5種類あり、本州と四国、九州の低山帯に分布するウスユキソウ、北海道東部と礼文島には、レブンウスユキソウ、早池峰山にはハヤチネウスユキソウ、中央アルプス木曾駒ヶ岳にはコマウスユキソウ、本州北部の秋田駒ヶ岳、鳥海山、月山、朝日、飯豊にはヒナウスユキソウ (ミヤマウスユキソウ) が、高山帯に分布する。

いずれも、全草に綿毛があり、新雪をいただいたような、ふわふわの総苞葉は美しく、薄雪草の名の由来になっています。

蛇紋岩の岩場に点々と咲く、ホソバヒナウスユキソウは、至仏山と谷川岳の固有種で、朝露をまとして、朝の光にきらめく時は、宝石よりも美しく、流れる霧にみえかくれる時は、神秘的にさえ思えます。

この美しくも貴重な花が、人の手によって荒らされることなく、美しい自然の中で、いつまでも育まれてと願います。 (大内 京子)

